

図7 全身性トロブシス症(HE染色, inset: Gram染色) 慢性骨髄性白血病患者の死因となった真菌性敗血症に随伴した肺動脈の真菌塞栓を示す。偽菌糸形成を欠く真菌細胞は、より好酸性が強く核の存在が明瞭な小型胞子と好塩基性のやや大型胞子の2種よりなっている。Gram染色では主として前者が陽性に染色される。

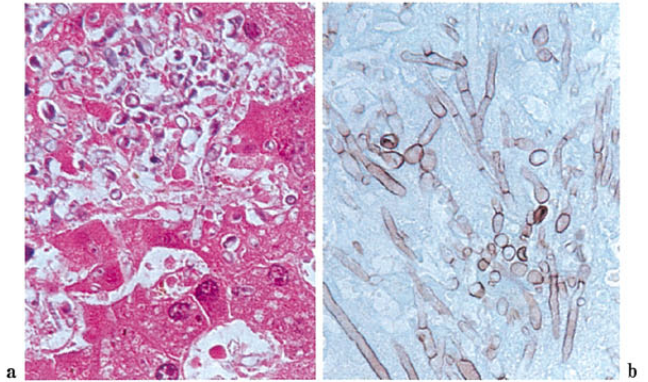


図8 全身性トリコスポロン症(a: HE染色, b: Grocott染色) 慢性骨髄性白血病症例における肝病変を示す。全身に播種した真菌は、*C. albicans*との鑑別が難しい。分岐する菌糸の存在、菌糸先端の先細りや三日月型の胞子の存在で、組織学的鑑別が可能な場合もある。*T. beigeli*は、Grocott染色による染色性が悪い。

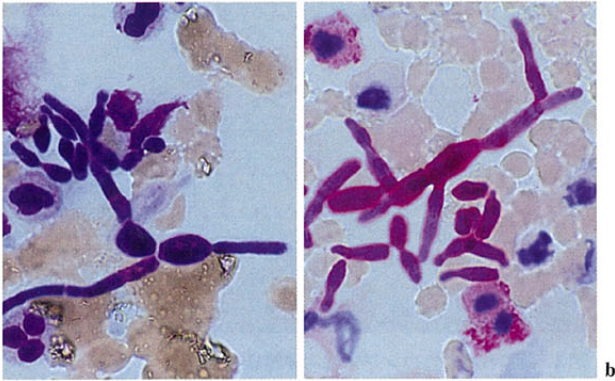


図9 尿細胞診標本にみられたトリコスポロン属真菌(a: Giemsa染色, b: PAS染色) カンジダとよく似た形態を示すが、真性菌糸を認める点, PAS染色性に濃淡を認める点がカンジダ属との違いである(東邦大大橋病院病院病理部, 田口勝二氏のご厚意による)。

- 2) 松田哲男, 松本忠彦: 慢性皮膚粘膜カンジダ症. 病理と臨床 1991, 9: 1173-1178
- 3) 奥平雅彦, 久米 光: 深在性真菌症の最近の諸問題. 病理と臨床 1991, 9: 1270-1273
- 4) 笹川 基, 石井史郎, 塩田吉一郎: 腔カンジダ症の診断における子宮頸部細胞診の臨床的意義について. 日臨細胞会誌 1995, 34: 599-602
- 5) 田口勝二, 岩原 実, 藤田正志他: 腔スメア上に検出されるカンジダ属に関する形態学的研究. 日臨細胞会誌 1997, 36: 1-7
- 6) 田口勝二, 岩原 実, 藤田正志他: 尿細胞診標本にみられたトリコスポロン菌要素の形態的検討. 日本臨床細胞学会雑誌 1999, 38(Suppl. 1): 246(抄録)
- 7) 発地雅夫: 真菌症の病理学的診断. 病理と臨床 1991, 9: 1139-1147

■真菌症の特徴

- ① 真菌症の大半は病態の軽い表在性疾患である。
- ② 深在性真菌症は診断が難しい上に、有効な予防法・治療法に乏しい。
- ③ 伝染性真菌症がほとんどない。
- ④ 歴史的には、細菌感染症よりも早く発見された。
1836 Bassi カイコの真菌症を記載
1839 Schönlein 黄癬が糸状菌(*Trichophyton schoenleinii*)による
1839 Lagenbeck 鷲口瘡(口腔カンジダ症)が酵母状真菌(*C. albicans*)による

めないこと, PAS染色に濃淡があること(カンジダは均一に濃染)が形態的識別点である。

*T. beigeli*は夏型過敏性肺臓炎の原因になる。古い木造家屋と高温多湿の環境でアレルゲンとなりやすい。西日本で6~9月に多発する。自宅を離れると自然寛解する。

参考文献

- 1) Chandler, F. W., Kaplan, W., Ajello, L.: Candidiasis. A Color Atlas and Textbook of the Histopathology of Mycotic Diseases, Wolfe Medical Publisher, London, 1980, 42-46